



吉原美智恵議員

地域資源を活かす取り組みは

知識の普及を図っている

問 大山町には、たくさん地域資源がある。平成18年の9月議会で観光に対する考え方を質問したが、これまでの成果と課題は。

観光は、宿泊、輸送、飲食、おみやげ物等、すそ野の広い産業であり、町内での交流滞在時間が長くなると、町の活性化

にもつながっていく。

町内には、「古事記」に出てくる「スセリ姫」を祀る神社があったり、磨けば光るストーリーを持った地域資源がある。どのように活かしていくのか。

答 (山口町長)

地域資源に対する全町的な知識の普及を図っている。各公民館で大山学講座を開催してきている。観光ガイドボランティアの養成にも努めている。

また、この頃空き家が目立ってきている。ある意味地域資源となり得る

また、大山僧坊跡や、所子地区伝統建造物群の国の史跡指定を受けるべく調査、研究中である。空き屋対策については、登録のお願いをしているが、田舎に住みたい人と貸したい人との需要のマッチングが非常に難しい。迎え入れる仕組みづくりが大事である。



スセリ姫をお祀りする唐王神社

情報モラル教育の充実は

学習の場を設けている

問 文部科学省は、1月に全国の教育委員会に、小中学校への携帯電話持込禁止と学校での情報モラル教育の推進を通知したところである。

この頃、特に携帯電話とインターネットの2大メディアが急速に普及してきたことで、子どもを取り巻く様々な問題が生じてきている。

このような状況の中、学校現場での指導はどのように進めていくのか。

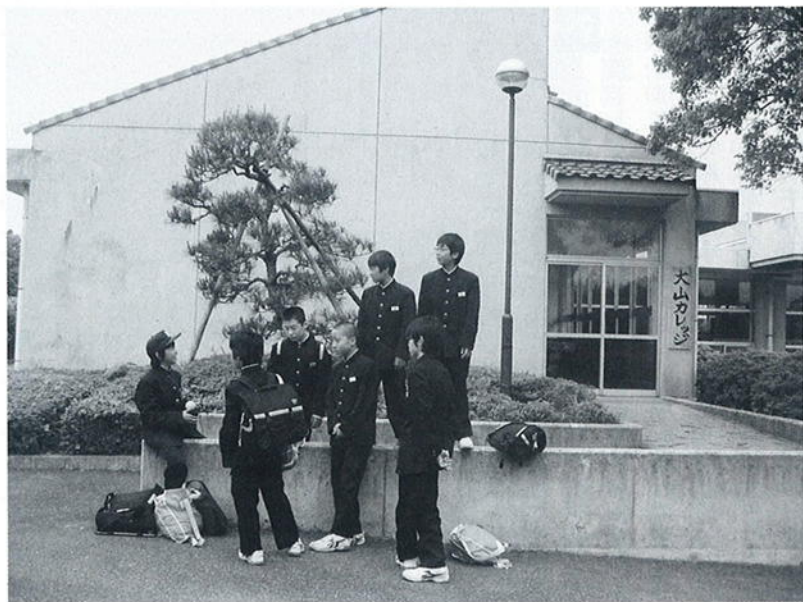
また、保護者へも、子供を見守るための啓発活動が必要ではないのか。

答 (伊澤百子教育委員長)

昨今、学習や、安全のためにと保護者が与えたインターネット環境や、携帯電話によって、児童生徒が様々なトラブルに巻き込まれたり、時には加害者となってしまったという深刻な社会問題となっている現実がある。学校における指導状況は、携帯電話の校内持込は原則禁止としているところである。

また、情報安全教育や、危険回避の側面から、使い方についての外部講師を招いての講話、情報に對しての正しいルールやマナーを学ぶ学習などを設定している。

保護者については、家庭でのルールづくりを行うことが重要であり、学校、家庭、地域が連携して児童生徒を見守る体制づくりを行う必要があると思っている。



明るく元気な中学生たち！